



復活の春に平和を祈る

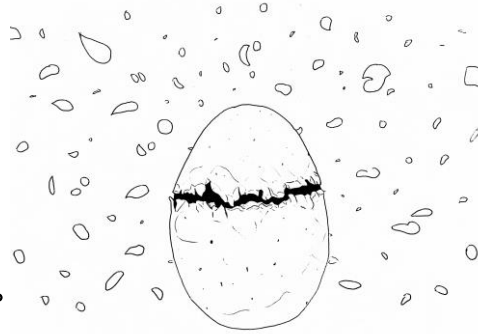
石原艶子

○人間は地球の一部、土から生れ土に帰る、生きとし生けるものすべての生命と共にある

○偶像を造り、それに依りたのむ者は皆、偶像と同じようになる

(旧約聖書 詩篇)

○人は生れた時から豊かに生きる人生という宝を与えられている、戦争はこの尊い人生を奪い取るもの。戦争絶対反対は人類の永遠なる叫びである。



≪旧約聖書 箴言の言葉≫

イラスト:大城旋律(孫)

○他を潤す人は自分も潤う ○愚か者は悪だくみを楽しみ 英知ある人は知恵を楽しむ ○高慢には軽蔑が伴い 謙遜には知恵が伴う ○肥えた牛を食べて憎み合うよりは 青菜の食事で愛し合う方がよい ○白髪は輝く冠 神に従う道に見い出される

復活の春に —— 宝の箱

2025年復活の春、さあ、宝の箱を開けよう ときどき胸は高なる、聞こえてくる歓喜の声がベートーベンの第九歓喜の合唱、メサイア「ハレルヤコーラス」、何?ここは別世界、天国?憎しみのない世界、殺りくのない世界、幼い子供達が殺されている地獄の戦争の地にこの宝の箱は落ちていた、あなたもこの宝の箱の中に入ってみませんか、あの美しいコーラスに乗って招きの声が聞こえます。憎しみは失せ、愛だけの世界、愛のみの行為がある、宝の箱は愛だけ、愛だけが満ちている。"あなたも入っておいで、一緒に生きようね、呼びかける声が聞こえる。人間とは人に愛される存在、そして人を愛する存在、これだけが人間の真実。この世界のあそこに、ここに、小さくそして大きく光り輝いている宝の箱が今も私を呼んでいる。世界中の権力者たち、悪魔の支配下から脱出して今、宝の箱を開けて入って来て下さい。人を殺さない、戦争をしない人間に戻って下さい。私達は、世界中の人と共に宝の箱に入って共に生きたい。どうかどうかみんな、戦争の地に落ちている宝の箱を開けて下さい。愛し愛される人間として生きたい!! 平和、平和、平和は愛なくしては決して生まれない。宝の箱の中から私達は叫び続ける。今日も明日も平和を求め、祈りつつ、涙を流しつつ叫び続ける。

☆敗戦後80年、米軍沖縄本島上陸80年、——

4月1日は80年前米軍が沖縄に上陸した日である。沖縄タイムス、琉球新報は連日沖縄戦の実態を連載し、二度と戦争をしてはならないという強いメッセージを発している。日本本土への時間稼ぎのため捨て石とされ、地上戦は3ヵ月も続き住民の4人に1人が命を落とした。あれから80年の2025年の今、沖縄に何が起きているのかその事実を見つめ、そこにある本質的な問題を共に考えたいと願う。沖縄には米軍基地の70%が集中し、その上に辺野古には新たな基地建設が進行中、沖縄の自然は破壊され続けている。そして南西諸島は南西シフト防衛線上にあるとして自衛隊軍事基地建設が進み、今や最強の軍事基地化が着々と進められている。沖縄の人々が願い続けた基地のない平和は夢とばかり逆行の道をまっしぐらに進んでいる。台湾有事を想定した住民避難計画は具体的な青写真まで作成して住民説明会まで持たれている。まるで戦争前夜であるかのようだ。与那国、竹富町、石垣、宮古の住民は船と空とで6日間かけて九州の各県に避難してホテル、旅館で暮すのだという。この計画の全てが私には全く空しいものに思え

る。戦争が起きてしまったらおしまい、住民の犠牲は目に見えていることは、ウクライナやガザを見て分る事である。然し、避難計画までもが今話し合われるということは、背後に戦争を起こしたいと計画している者が居るということでもある。それは一体誰か、台湾有事を起こそうとする目的は何なのか、アメリカの今日までの歴史を見たら分ることがあります。常に戦争を起こしてきた米国、今のウクライナとロシアの戦争にも陰で米国が深く関わっている事を見れば台湾有事を煽り、中国を弱体化させるために戦争を起こしたい、そして死の商人の自国を富ませたい、そのために日本の自衛隊を前面に立てて戦争をさせたのではないのでしょうか。米国隷属の日本はアメリカに利用され尽くして国民を守ることなど出来ないでしょう。台湾は中国の一部であることは既に日本も認めていること、現状維持で経済協力して共存の道を歩んできたのですから中国包囲網などを作って、有事をあえて起こそうとすることは絶対にしてはならない事です。私達の国、日本が日中戦争でどれほどの悪事を働き中国の人々の命を奪ったことか、負の事実は不問に帰して謝罪もしないこの国は、アメリカ隷属国家になり果て、再び戦争する国となって自滅していくのでしょうか。故日高文郎氏（日本の社会学者、行動する学者として戦後の市民運動をリード）の言葉を少し御紹介したいと思う。『全体的な自己崩壊のおそろしさは、責任をとるものがだれひとりとしていないままに、ゆったりと、もたれあいながら、退廃への道を歩んでいくところにある。日中戦争から太平洋戦争にはいる時もそうだった。そして方向は逆のようであったが8.15以後もそうだった。私たちは軍国主義から民主主義へとなだらかな道を歩いた——今私たちはひょっとしたら民主主義から得体のしれない管理主義的全体主義へのなだらかな道をスローモーションのように歩いているのかもしれない。下降していくことの気楽さに気づかない程のスピードで。戦時中は無責任の体系、いまは快適の哲学のなかでの平和の時代のなかでの「無責任の体系」が進行している。』鋭い本質的な問いだと思います。“目を覚まして祈りなさい”と神の声が聞こえてきます。NO WAR 命どう宝。

宮城島での抗議行動No.2

月桃通信No.44 にて宮城島でのことを書きましたので、現在の状況をNo.2 としてお話ししたいと思います。うるま市は沖縄本島の中部にあり、20 年前4市町村が合併した広い地域です。沖縄県の中で最も米軍基地面積が広くあり、市の財政は最下位で貧しい暮らしをする人々が多く、長年の保守政治のひずみが生じています。宮城島は同じうるま市とは言え、私の住む石川からは車で1時間を要する遠い所です。天気の良い日にはブルーに輝く美しい海に感動する素晴らしい所で、観光スポットでもあります。海中道路を走り、平安座（ヘンザ）島、浜比嘉島、宮城島、伊計島と今では海中道路や橋により、全てがつながってどの島にも楽に行くことが出来ます。本当にたえようもない程絶景が連なり、素晴らしい所です。宮城島に近い平安座島には沖縄石油基地があって巨大な白いタンクが数えきれない程並び、巨大な石油基地が広がっています。宮城島の沖宮鉾山は伊計島の近くにあります。既に鉾山として開発されていた所ですが、裸にされたむき出しの茶色の丘が広がっています。この鉾山から辺野古、大浦湾埋め立てのための土砂が搬出されているのです。2月迄は沖縄市の中城湾港から海路、辺野古へと搬出されていたのですが3月になって何と平安座島の石油基地の港からの搬出に変わったのです。石油基地の港には10分位、最高に利便性は高く防衛省にとっては好都合、ダンプの台数は増加し、1日150台を越えるようになりました。県への申請も全くないままに変更した強引なやり方は、私たちの現場での抗議行動を一層厳しくしています。

☆ムカデ抗議行動

当初は安和、塩川で行っていた様に牛歩戦術でしたが、場所が狭く、距離も短いので私達の仲間達が考えた方法は全く新しく、そしてすばらしいムカデ歩きです。長い横断幕を持って並び、ゆっくりゆっくりゲートから出ようとして連なっているダンプの出口前をムカデになって15メートル位の所を20分～30分かけて進むのです。歩く私達も大変ですがそれを忍耐してじっと見て待つ機動隊員や警備員もまたイ

ライラして大変なのです。この私達の自由な表現活動を今のところは強制排除せずに許し我慢してくれていますが、この先も許してくれるのか分らず不安があります。ムカデ歩き抗議行動がこれからもずっと出来ることを強く願い頑張っています。ムカデ歩きをしながら「歩け歩け」のメロディーに合わせて歌っています。臨機応変、自然に溢れる言葉をつないで歌っています。私が勝手に作りました。

① 歩こう歩こうわたしは元気 ムカデになってムッサムサ歩く 山道、ぬかるみ、砂浜 足なみそろえ
ムカデは歩く ムカデは強い ひとつの体

② 歩こう歩こうムカデは元気 足なみそろえて ムッサムサ歩く ムカデは強い、踏みつけられても何
度も生き返り、絶対死なないよ、ムカデは強い ひとつの心

③ 歩こう歩こうムカデは強い ひとつの心 ひとつの体

足なみそろえて歩きつつ、平和を叫び歩き続ける、命どう宝 ムカデの心

{宮城島の土砂を大浦湾に運ばないで下さい、戦争のための軍事基地を作ってはいけません}

④ 歩こう歩こうムカデは元気、ひとつの心、ひとつの体、足なみそろえて歩き続ける、強い絆で結ばれて、絶対諦めない、命どう宝 平和の心

歌詞や言葉もその時々自由に表現しつつムカデになってムッサムサ歩きます。ある時、機動隊の青年が「ムカデの方がもっと早く歩くよ」と言いましたが「そのムカデは道草したり、止ったりするでしょう、私たちのムカデは



確実にダンプの出入口前を真っすぐ前に向かって歩くから、結局早歩きのみカデですよ」と。少し笑えてきました。がゆっくりゆっくり歩きのムカデは疲れます。それが6回〜7回、朝9時〜午後4時頃まで続くのです。本当に高齢者中心の私達にとって過酷な現場です。これからの暑い暑い夏が心配です。本土から来られムカデ歩きをしてくれた友人が言っていました。「この現場に来てみないと分らないね、やっぱり厳しいね」と。沖縄のこの現場に来て、初めて分るのだと思います。でも現実には思いはあっても来ることの出来ない方達が殆どです。こうして少しでも、現実をお伝えすることによって想像して、思いを寄せて応援して頂きたいと思って書いています。またある時、辺野古の座り込みの場で宮城島でのムカデ抗議行動のことをお話して「歩け歩け」の歌も歌いました。そしたらある女性が「私はムカデが大嫌いだけど、ムカデを応援する気持ちになりました。頑張って!!」と言葉をかけて下さったことがすごく嬉しくて胸がいっぱいになりました。ここの沖宮鉦山は岩山の部分もありますが、赤土まじりの土砂の山は痛々しいむき出しの赤はだか、大雨が降ったら、、、もしも去年の北部豪雨のような雨に襲われたら鉦山は一気に崩れ流れることでしょう。現に少しの雨でもトラブルが生じているのですから。またダンプが走る道路には山崩れ土砂崩れの場所が何箇所もあり工事中で片側通行の所もあり、島の道路は常に山崩れの危険があるのです。こんな島の山から辺野古新基地建設のために土砂が搬出されることは、どう考えてみても絶対あってはならない異常事態なのです。何故、敗戦後80年の今、こんなことが起きているのでしょうか。抑えきれない悲しみの感情がこみ上げてきます。これからまた何が起きるか分かりません。大浦湾に面した名護市安部（オスプレイが墜落した所）の海から大浦湾埋め立て用に海砂を採取する計画があることが分かりました。海砂採取により砂浜の地形は変り、サンゴや生息する全ての生き物は死滅してしまいます。海砂採取は大きな掃除機のようなポンプで根こそぎ底の泥を汲み上げていくものだそうです。こうして沖縄の海も山も破壊されて、取り返しのつかない状態が進行しているのです。私は悲しくて悲しくてやりきれない思いの中で唯々、共に呻き共に泣きながら、海は泣いている――と歌い抗議の声を上げるしかありません。宮城島の行動は一日中は体力が持ちません。自然と午前の人午後の人、中には一日中の人も、各々の体力、事情に合せて継続する長い闘いをうるま島ぐるみの仲間達、そして応援に駆けつけて下さる各地域や本土からの方達に支えられつつ、命の続く限り頑張っています。天に帰られた宮城英和さ

んが残された CD での歌声に合せて歌いつつみんな頑張っています。私も大好きなこの歌を宮城さんと共に歌っています。

♪ 押さえきれない怒り、こらえきれない悲しみ そんなことのくり返しだけど決して負けはしないさ
ケサラケサラケサラ僕たちの人生は 平和と自由求めて生きていけばいいのさ

♪ 泣きはらした夜、迎える朝のまぶしさ 涙の乾くときはないけど 決して倒れはしないさ

♪ 広く高く大きく明日に向けて力強く、人間のやさしさを歌え歌え歌え・・・宮城島から土砂を運ばせないために今日もここに来るのさ、今日もここに来たのさ。

米不足に思う

- 米不足、玄米食べて米余り ●米不足、美食・飽食やめ、病気減り、医療費減り、幸せ感増大
- 米不足、飽食・食品ロスやめて分ち合う喜び平和なり ●大地の恵かみしめて、味わうお米のありがたさ
- 米不足、戦争・飢餓時代を想起し感謝を学ぶ好機なり ●米不足、減反給付金、愚策の結果なり
- 米不足、百姓一揆、農業減ぼす政治許さない ●米不足、土に帰り土に生きる若者達の夢、豊かなり

うるまの海が教えてくれたこと

宮城島での行動が始ってから普段は行くことのない勝連半島から島々へと通うことになって海と共にある沖縄の素晴らしさを全身で実感しています。満潮の時、干潮の時、風が強い時、晴れの日、曇りの日、自然の営みは刻々と変化し命の営み、命の輝き、自然のエネルギーを見せてくれます。そして人間は太古の昔から自然と共にありこの大地の上に生きて、豊かな文化を築いてきたのです。私たちの命はこの地球、大自然の一部であることが分るのです。ある時、この地で生れ生活してきた友人が昔のことを話して下さいました。その日は干潮で海の中にひとつの道が出来ていました。友人の話では、昔は海の中に出来たあの道をトラックが走って島へ渡っていたと言うのです。海中道路などない昔、人々は自然の時間帯に合わせて、貧しくとも豊かな生活をしていたのですね。その海の中の道を見て、私の頭の中にひらめいたことがあります。旧約聖書のモーセの物語、「十戒」の映画で多くの方が御存知の物語です。イスラエルの民がエジプトから脱出する時、海が二つに割れて道が出来て無事イスラエルの民はその道を通って助かりました。そして海は元に戻りエジプト軍は海に飲み込まれてしまいました。イスラエルの民も干潮の大潮の時、海の中に出来た道を通ったのではないか、そしてやがて潮が満ちてエジプト軍は海に飲まれたのではないのか。奇跡と言われる物語や伝承も、自然の営みと一体である事を知らされます。人間の歴史は地球という生命体と一体なのです。

地とそこに満ちるもの 世界とそこに住むものは主のもの 主は大海の上に地の基を置き、潮の流れの上に世界を築かれた（旧約聖書 詩篇）

平和をつくる人は、海から学び、星空から学び感謝する人、世界のリーダー達よ、海の前に今、立って、風を受け潮の音を聴いてみて下さい。

うるま島ぐるみだより 4月27日うるま市長選挙、長年の国追従の保守政治を刷新し、命通う新しいうるま市、新しい市長誕生のため、選挙活動に一丸となって奮闘しています。若者の投票率向上を願い頑張っています。

辺野古基金のために・現場行動支援のために

- うつぐみの会（大野悦子：神奈川県福生市在住）リサイクル帯を求めています
- あみの会（山田博子：うるま市在住）リサイクル糸やセーターなど求めています

品物を提供して下さいの方は**必ずご連絡下さい。** 窓口：石原つや子

〈連絡先〉〒904-1115 うるま市石川伊波 1180-5 石原つや子

自宅：098-964-3237 携帯：090-4471-1942 Email：yuuwanoie@gmail.com

〈振込先〉ゆうちょ銀行 記号：12260 番号：12650271 イシハラツヤコ